



加藤 元の



と暮らして  
みませんか

4

今回は、犬の食事についてお話しします。

食事は、基本的には良質のドライタイプのフードだけを与えましょう。すべてのドッグフードは獣医栄養学に基づいて作られていなければなりません。幼犬、成長期、成犬、中年、高齢というように犬の一生のサイクルや、犬のサイズや運動量に応じて与えます。

犬にとって特に大切なカルシウム、リン、タンパク、糖質、脂質の比率など、より完全で安全なドライのフードは、犬の体と歯の健康によいだけでなく、便利で経済的という意味からもお勧めです。

「同じものばかりだと飽きる

## 犬の食事

# 人間同様「腹八分目」が大切

「のでは？」と、よく質問を受けますが、犬が健康であり、適量を与えている限り、犬が飽きるということはないのです。

逆に、ほかの食べ物を与えると栄養バランスが崩れ、人間の食べ物をほしがる悪癖が付きまします。よい習慣を身につけさせるためにも、飼い主が犬の食習慣を崩すようなことをしてはいけません。

もちろん、ドッグフードでも与え過ぎは禁物。栄養オーバーは肥満を招き、肺疾患、関節などの病気のもとになります。人間と同様犬にも「腹八分目」が大切です。

特に、ラブラドル・レトリバーやゴールデン・レトリバーなどの大型犬の場合、成長期に過剰な栄養は与えないでください。骨格の発育が早いために、遺伝的に問題を抱えた犬では、股関節・肘関節の病気（股・肘関節形成不全）が進みやすいのです。栄養過多で病気を重くしてはいけません。

子犬の食事は一日三、四回が目安です。子犬は自分の体に必要な量を知っているので、犬の食べ方をよく観察して食事の量を決めてください。

詳しくは近くの動物病院でしつけも含めて相談されることをお勧めします。

（ダクタリ動物病院広尾病院院長  
日本ヒューマン・アニマル・ボンド・  
ソサエティ会長）

《産経新聞2004年4月25日掲載》